

日本技術士会 長野支部、信州大学工学部水環境・土木工学科共催
令和6年度北信 CPD 講演会・見学会報告

1. 日 時：令和6年10月16日（水） 13:30~16:00
2. 会 場：信州大学工学部 国際イノベーションセンター
講演会：2階セミナースペース、
見学会：計測機器（地下1階）、水処理実験室（7階）
3. 参加者：講演会 会場：計40名（会員23名、協賛団体2名、一般5名、学生10名）
オンライン：計25名（会員25名）
見学会 計30名（会員23名、協賛団体2名、一般5名）
講 師 1名 大学関係者 6名 参加合計 72名

4. 概 要

- 1) 講演会：オンライン併用 13:30~15:00
演 題：「今昔、水処理技術に求められてきたこと／求められていること」
講 師：信州大学水環境・土木工学科教授
小松一弘 氏



小松教授の講演

要 旨：

日本の年降水量は世界の1.4倍と水に恵まれた国であるが、一人当たりの*1水資源賦存量は、世界の1/4程度であること。また、急峻で狭い国土に非常に多くの人々が居住しているため、些細なことで一気に水質悪化が進む環境にあること。

水源県として、上水—下水—上水という水循環の一連の流れのなかで下水処理水の挙動、川、湖の水質を把握することは重要。水環境保全と水処理による恩恵が相乗的な効果を発揮できるように、水質悪化をさせないための水処理技術（下水）及び現在の水道水を供給する水処理技術（上水）の持続対応や更なる検討は必要不可欠。

更に、下水処理水の再利用や新たな膜を使った浄化システム及び、今後必要となる災害対応や顕著な人口減少地域に適した小規模分散水循環システムについて提案。

*1：水資源賦存量とは、降水量から蒸発散量の差、水資源量ともいう。

- 2) 見学会：国際科学イノベーションセンター（地下1階、7階） 15:00~16:00

当センター所属の藤重雅嗣特任教授より、カーボンナノファイバーを使用した水浄化の利用や実験について説明をいただいた後、地下1階の計測分析評価設備、7階のカーボンナノファイバーを使用した水浄化実験設備を見学。



藤重特任教授の説明



施設見学